

第1章「明日の京都」の実施状況

第1節 中期計画の推進状況

中期計画では、「府民安心の再構築」、「地域共生の実現」、「京都力の発揮」の3つの基本方向のもとに17の分野を設定し、それぞれの現状・課題を分析するとともに、京都府の使命を定義した上で府民起点に立った基本目標を掲げ、この達成をめざして体系的に施策・事業を展開していくこととしている。

本節では、中期計画に関連する指標の動きを分析した上で、計画の体系に沿って、分野ごとに推進状況やベンチマークからみた今後の課題をとりまとめる。

1 中期計画の関連指標の動き

中期計画に掲げた各指標の「数値目標」は、別途目標年次を定めるものを除き、2015年3月までの達成をめざすものであり、また、便宜的に、数値目標を目標年次に応じて年度毎に割り戻した参考年間目標を設け、各年度の実績が最終的な数値目標の達成に向けて順調に推移しているかどうかを確認している。

各分野の指標について、数値目標及び参考年間目標の進捗が低調となっている、後退している分野は、それぞれの要因を分析し、課題を明らかにした上で、進捗率を向上させる取組が重要となる。

(1) 数値目標の達成に向けて順調に進捗する指標

数値目標の達成に向けて順調に進捗する指標※ 50%

※参考年間目標達成指標割合

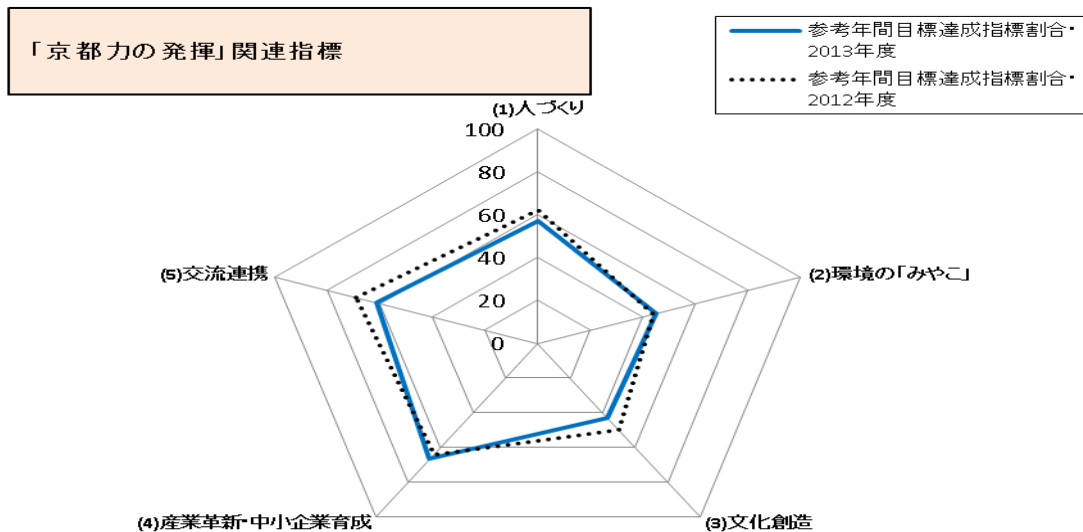
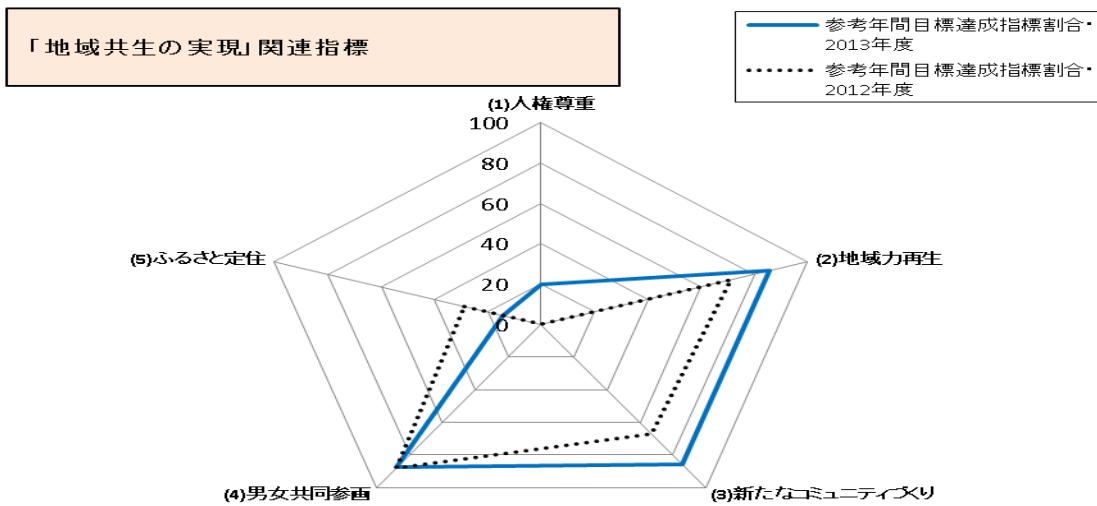
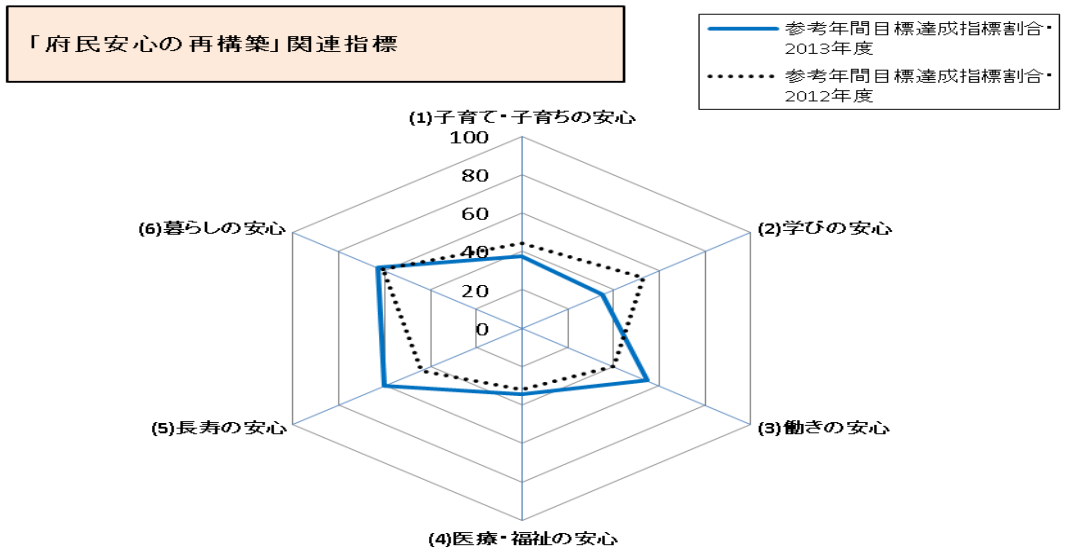
今回の調査時点で、参考年間目標を達成した指標は、2015年3月までに達成をめざす最終的な数値目標の達成に向けて想定どおり又は想定以上のスピードで取組が順調に進捗していることを表し、達成に至らなかった指標は、現在の進捗度合いでは目標年次における数値目標の達成が難しいことを示している。各分野の状況は以下の表－1のとおりである。

◇表－1：数値目標の達成に向けて順調に進捗する指標の割合

分野	指標数	2013年(度)実績値計測指標数 a※	参考年間目標達成指標数 b	参考年間目標達成指標割合 b/a	〔前回〕参考年間目標達成指標割合	
府民安心の再構築	(1)子育て・子育ての安心	25	32	12	38%	44%
	(2)学びの安心	19	37	13	35%	53%
	(3)働きの安心	12	11	6	55%	40%
	(4)医療・福祉の安心	27	32	11	34%	30%
	(5)長寿の安心	10	10	6	60%	44%
	(6)暮らしの安心	28	27	17	63%	61%
	小計	121	149	65	44%	46%
地域共生の実現	(1)人権尊重	8	5	1	20%	0%
	(2)地域力再生	7	7	6	86%	71%
	(3)新たなコミュニティづくり	8	7	6	86%	67%
	(4)男女共同参画	8	8	7	88%	88%
	(5)ふるさと定住	7	7	1	14%	29%
	小計	38	34	21	62%	56%
京都力の発揮	(1)人づくり	13	14	8	57%	62%
	(2)環境の「みやこ」	21	20	9	45%	44%
	(3)文化創造	10	7	3	43%	50%
	(4)産業革新・中小企業育成	24	24	16	67%	64%
	(5)交流連帯	10	13	8	62%	69%
	(6)希望に輝く地域づくり	—	—	—	—	—
	小計	78	78	44	56%	58%
合計	237	261	130	50%	51%	

※ 1つの指標について、複数の参考年間目標を掲げているものは、目標毎にカウントしている。
 なお、2013年版報告書以降に実績値が把握できていない指標、事業開始に至っていない指標等進捗率が表せない指標については、カウントしていない。以上のことから、毎年度の実績値計測指標数が同じではないため、参考年間目標の達成指標割合の年度の単純比較はできない。

◇グラフ：数値目標の達成に向けて順調に進捗する指標の割合（表－１）



(2) 数値目標の進捗状況

数値目標※を上回った指標 39%

※2015年3月までに達成をめざすもの

数値目標は、2015年3月までに達成をめざすものであり、今回の調査時点では、計画期間（4年間）の3年目に当たり途中経過となるが、既に数値目標を上回った（「減少」をめざす指標の場合は、数値目標を「下回った」）場合は、最終的な数値目標の達成に向けて想定以上のスピードで取組が進捗していることを示している。各分野の状況は以下の表－2のとおりである。

◇表－2：数値目標を上回った※¹指標の割合

分野	指標数	実績値 計測指標数 a ^{※2}	数値目標を上回った 指標数 b	数値目標を上回った 指標の割合 b/a	
府民安心の再構築	(1)子育て・子育ての安心	25	32	11	34%
	(2)学びの安心	19	39	12	31%
	(3)働きの安心	12	11	5	45%
	(4)医療・福祉の安心	27	34	12	35%
	(5)長寿の安心	10	10	5	50%
	(6)暮らしの安心	28	28	14	50%
	小計	121	154	59	38%
地域共生の実現	(1)人権尊重	8	5	0	0%
	(2)地域力再生	7	7	3	43%
	(3)新たなコミュニティづくり	8	7	3	43%
	(4)男女共同参画	8	8	4	50%
	(5)ふるさと定住	7	7	0	0%
	小計	38	34	10	29%
京都力の発揮	(1)人づくり	13	14	7	50%
	(2)環境の「みやこ」	21	20	8	40%
	(3)文化創造	10	10	4	40%
	(4)産業革新・中小企業育成	24	24	14	58%
	(5)交流連帯	10	13	3	23%
	(6)希望に輝く地域づくり	—	—	—	—
	小計	78	81	36	44%
合計	237	269	105	39%	

※1 数値目標が「増加」をめざす場合は「上回った」、数値目標が「減少」をめざす場合は「下回った」指標をカウント

※2 1つの指標について、複数の数値目標を掲げているものは、目標毎にカウントしている。また、基準値からの増減を目標とする指標等は、基準値を上回った（「減少」をめざす指標の場合は、数値目標を「下回った」）もの以外は、実績に関わらず進捗率は0%とみなしてカウントしている。なお、事業開始に至っていない指標等は実績を把握できないため、カウントしていない。以上のことから、毎年度の実績値計測指標数が同じではないため、数値目標を上回った指標の年度の単純比較はできない。

2 ベンチマークからみた課題

本章では、分野毎に京都指標等及び施策指標の動き並びに関連する主要事業を整理し、「ベンチマークからみた課題」を示すとともに、基礎資料として、以下に示す「指標・事業連関表」、「統計データによる指標」、「施策指標」を添付した。

「ベンチマークからみた課題」については、次年度以降の予算案の編成、運営目標の設定、アクションプランや最重点プラットフォームによる検討等、中期計画の期間内に適切な行動につなげることが重要である。

しかしながら、本レポートに示した「ベンチマークからみた課題」は、あくまでも指標の動き等をもとに相対的に弱い部分を抽出したものであり、ここに示した以外の課題の存在を否定するものでないことはもちろん、府政運営に当たっては、弱みをなくすと同時に、強みをさらに伸ばす視点も不可欠であることに留意が必要である。

(1) 指標・事業連関表の作成

中期計画で設定した「基本目標」、目標の達成度合いを具体的に測定するための指標及び目的達成の手段としての主要な事業(※1)を体系的に示した。

表中の記号表示については、次のとおり。

- ・ ■：京都指標等(※2)
- ・ □：施策指標
- ・ 「推移」「水準」「相関度」の記号・数字は下表による。

	推 移	水 準	相 関 度
■ 府 民 意 識 調 査 に よ る 指 標	☆：前回調査値より向上 ★：前回調査値より後退	「明日の京都」でめざす社会の状況により近い選択肢を選んだ人の割合(%)	「京都府に住み続けたいと思う」との相関度を表す γ (ガンマ)値(※3)
■ 統 計 デ ー タ に よ る 指 標 (※4)	☆：直前値より改善 (直前値と同値含む) ★：直前値より後退	◎：全国上位5位以上 ○：全国平均以上 △：全国平均未満 ×：全国下位5位以下	
□ 施 策 指 標 (※4)	☆：前年度実績以上 ★：前年度実績未満	◎：中期計画目標達成 ○：参考年間目標以上 △：参考年間目標未満かつ基準値以上 ×：基準値未満	

(共通) -：比較不能

- ※1 「指標・事業連関表」の平成26年度当初予算等における主要な事業
このベンチマークレポートの指標・事業連関表には、平成26年度当初予算及び6月補正予算の主要事項に基づき作成された「事業仕分け・評価調書」の事業を基本に掲載している。
なお、掲載する主要な事業は、政策的な事業とし、経常的な経費の支出を伴う事業等、全ての事業を掲載しているものではない。
また、各地域振興計画にかかる連関表には、同様に地域振興計画推進費に関する事業を掲載している。
- ※2 京都指標等
京都指標（京都府民の意識調査結果〔42項目〕と統計データ〔43項目〕）とその他の統計データで構成している。
京都指標の詳細については、P.243を参照
- ※3 γ （ガンマ）値
府民意識調査の各設問に対する回答と「京都に住み続けたいと思うか」への回答との相関関係の強さを表し、0.3を超えると強い相関関係があると判断する。例えば、「京都府が優れたまち並みや景観、自然環境に恵まれていると思う人の割合」及び「住んでいる地域について、個性や魅力を感じている人の割合」の γ （ガンマ）検定値は0.481と高く、そう思う人ほど、「京都に住み続けたい」と思っていると言える。
- ※4
指標によっては、速報として公表された値を実績値に用いているものもあり、次年度以降のベンチマークレポートにおいて実績値が変更される場合がある。

（2）統計データによる指標及び施策指標の推移の表示

「ベンチマークからみた課題」を抽出する要因となった指標の推移を中心に掲載した。
※グラフでは、西暦を下2桁で表記

（3）ベンチマークからみた課題の抽出

ベンチマークからみた課題については、①京都指標等については、統計データにおいて全国的に見て劣位にある又は状況が悪化傾向にある指標や、府民意識調査において望ましい回答割合の低い指標、②施策指標については、目標の達成に向けて進捗に問題がある又は現時点で目標達成が困難である指標の状況等をもとにして、特に対応が求められるものを抽出した。

なお、できるだけ多様な課題について政策議論を展開していくことが望ましいことから、同一の課題を前年度に引き続いて抽出することは、原則として避けることとした。

ベンチマークからみた課題一覧

分 野		ベンチマークからみた課題
府民安心の再構築	(1)子育て・子育ての安心	総合的な少子化対策の推進
	(2)学びの安心	児童・生徒の学ぶ意欲を育てる仕組みづくり
	(3)働きの安心	人手不足が生じている職業の労働環境の整備
	(4)医療・福祉の安心	生活保護受給者や長期離職者など生活困窮者の生活と就労の一体的支援の推進
	(5)長寿の安心	介護予防給付の見直しに伴う地域支援事業の新たな担い手づくり
	(6)暮らしの安心	地域ぐるみの防災・減災体制づくり
地域共生の実現	(1)人権尊重	急増するインターネット上の人権侵害への対応
	(2)地域力再生	—
	(3)新たなコミュニティづくり	少子化対策の一環として出会いから結婚までをコーディネートする仕組みづくり
		増え続ける単独世帯を地域社会で支え合い交流を促す仕組み・機会づくり
	(4)男女共同参画	ドメスティック・バイオレンス被害者の自立の支援
(5)ふるさと定住	定住・移住に向けた農山漁村における生活基盤の創出・改善	
京都力の発揮	(1)人づくり	産業界や地域の新たなニーズに対応した人材の育成
	(2)環境の「みやこ」	持続可能な循環型社会の推進
		自然景観・都市景観の形成・保全
	(3)文化創造	文化意識を高める事業の実施や施設の有効活用
	(4)産業革新・中小企業育成	外国人をはじめ、観光客が求める魅力的な観光の提供体制づくり
流通・販売戦略の強化等による農林水産物の新規需要の創出		
(5)交流連帯	—	